

- 問1 16世紀半ばに種子島へ伝来した鉄砲は、その後の日本の戦い方を大きく変えることとなりました。鉄砲の普及が戦国時代の社会や軍事面に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|------------------------------------|---|--|
| 1. 騎馬武者の一騎打ちが重視されるようになり、個人の武勇がより重んじられた | 2. 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した | 3. 鉄砲の製造が困難であったため、京都周辺の限られた大名だけが勢力を伸ばした | 4. 武器の威力が向上したため、平地での戦闘を避けて山城にこもる戦術が一般的になった |
|--|------------------------------------|---|--|
- 問2 1549年、日本の鹿児島に上陸し、キリスト教を日本に初めて伝えたイエズス会の宣教師は誰ですか。 (2017年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|------------|--------------|----------------|
| 1. マゼラン | 2. マルコ・ポーロ | 3. ヴァスコ・ダ・ガマ | 4. フランシスコ・ザビエル |
|---------|------------|--------------|----------------|
- 問3 16世紀後半に甲斐や信濃の一部で使われていた、度量衡に関する独自の基準である「甲州ます」の説明として、最も適切な記述を選びなさい。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた | 2. 南蛮貿易を通じてキリスト教の宣教師たちが持ち込んだ、西洋式の容積単位に基づいた枡である | 3. 将軍の足利義昭が京都の商人に命じて作らせ、全国の有力大名に配布した標準的な枡である | 4. 江戸幕府が貨幣制度の安定を目指して制定した、全国で唯一使用が認められた公認の計量器である |
|---|--|--|---|
- 問4 ヨーロッパからアジアへ向かう海上航路において、アフリカ大陸の南端に位置し、中継地点として重要な役割を果たした場所の名称として正しいものはどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|----------|----------|-----------|
| 1. 喜望峰 | 2. パナマ運河 | 3. スエズ運河 | 4. マゼラン海峡 |
|--------|----------|----------|-----------|
- 問5 室町時代後半から戦国時代にかけて、実力のある者が身分の高い者に打ち勝って勢力を広げていく社会風潮が見られました。このような風潮を何と呼びますか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 1. 惣領制 | 2. 下剋上 | 3. 徳政令 | 4. 寄合 |
|--------|--------|--------|-------|
- 問6 石見銀山から産出された銀は、16世紀後半から17世紀初めにかけて世界の銀産出量の約3分の1を占めていたとも言われています。この銀山で生産を支え、日本の銀が国際社会へ大きな影響を与える要因となった技術的背景として正しいものを選んでください。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 足尾銅山鉍毒事件を教訓にした、公害を出さない最新の濾過技術が開発されたこと | 2. 明治維新以降、フランスの技術を取り入れた官営模範工場として整備されたこと | 3. たたら吹きという、鉄を精錬するための日本独自の製鉄法が応用されたこと | 4. 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと |
|--|---|---------------------------------------|--------------------------------------|
- 問7 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国内を統治し、家臣や民衆を統制するために独自に制定した法律を何というか。 (2021年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|----------|--------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 公事方御定書 | 3. 御成敗式目 | 4. 分国法 |
|----------|-----------|----------|--------|
- 問8 戦国時代、現在の島根県に位置する石見銀山は日本最大級の銀山として知られていました。この銀山の支配権をめぐる、中国地方を舞台に激しい抗争を繰り広げた戦国大名の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2026年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 武田氏と上杉氏 | 2. 織田氏と今川氏 | 3. 島津氏と大友氏 | 4. 尼子氏と毛利氏 |
|------------|------------|------------|------------|
- 問9 1543年に種子島へ鉄砲が伝来したことは、その後の戦国時代の戦い方や社会にどのような変化をもたらしましたか。最も適切な説明を選んでください。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった | 2. 騎馬武者による一騎打ちが戦いの主流となり、個人の武勇がより重視されるようになった | 3. 弓矢や刀剣が全く使われなくなり、すべての兵士が鉄砲のみを装備して戦うようになった | 4. 鉄砲の製造に高度な技術が必要だったため、戦国大名同士の争いが一時的に停止した |
|---|---|---|---|
- 問10 戦国大名が制定した「分国法」には、家臣同士が私的な理由で争うことを厳しく禁じる「喧嘩両成敗」の規定が多く含まれています。このような規定が多くのお大名によって導入された背景として、最も適切な理由はどれですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 貨幣経済が浸透し、武士が戦うことよりも商業に従事することを推奨したから。 | 2. 家臣たちの不満を解消するために、すべての裁判を幕府の裁定に委ねる必要があったから。 | 3. 海外から伝来したキリスト教の教えに基づき、平和な社会を築くことが求められたから。 | 4. 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。 |
|---|--|---|---|
- 問11 室町時代に足利義満が開始した、大陸との外交や貿易の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. イエズス会の宣教師であるフランシスコ・ザビエルの布教を保護する条件として、ポルトガル船との間で南蛮貿易を開始した。 | 2. 博多湾を襲撃した元軍を退けた後、元の優れた文化を導入するために、北条氏が中心となって大陸との官民一体の貿易を推進した。 | 3. 明の皇帝から「日本国王」として認められた義満は、倭寇と正式な貿易船を区別するために「勘合」という札を用いる日明貿易を行った。 | 4. 幕府が発行した「朱印状」を携えた船が、東南アジアの諸港へ出向いて、香料や絹織物などを取引する自由貿易を行った。 |
|--|--|---|--|
- 問12 15世紀後半から約11年間にわたって京都を中心に続き、その後の略年表において「下剋上」の風潮が全国に広まるきっかけとして記される戦乱はどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 観応の擾乱 | 2. 応仁の乱 | 3. 壬申の乱 | 4. 承久の乱 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問13 戦国大名は、自らの居城の周辺に家臣や商工業者を強制的に呼び寄せて住ませ、領国支配の拠点となる町を築きました。このような町の形態を何と呼びますか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 1. 門前町 | 2. 宿場町 | 3. 城下町 | 4. 港町 |
|--------|--------|--------|-------|
- 問14 戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何というか。 (2021年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|----------|----------|--------|
| 1. 御成敗式目 | 2. 武家諸法度 | 3. 公家諸法度 | 4. 分国法 |
|----------|----------|----------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した	鉄砲はそれまでの弓や刀に比べ、習得が比較的容易で高い殺傷能力を持っていたため、大量の足軽に装備させて組織的に運用する集団戦法を生み出しました。これにより、一騎打ちを中心とした従来の戦い方は衰退し、織田信長が長篠の戦いで活用したように、大規模な軍事力を持つ戦国大名が有利になる社会構造へと変化しました。
問2	答え 4 フランシスコ・ザビエル	スペイン出身の宣教師で、カトリック教会の改革を目指したイエズス会の創立メンバーの一人です。1549年に鹿児島へ到着し、その後、山口や京都などで布教活動を行いました。当時、ヨーロッパでは宗教改革が起こっており、カトリック教会は新たな信者を得るために海外への布教に力を入れていました。
問3	答え 1 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた	甲州ますは、戦国時代に武田氏の領国などで使用された枡です。当時、中央では「京枡」が使われていましたが、地方の有力大名は自分の領内の経済や税（年貢）の徴収を管理するために、独自の度量衡を定めていました。甲州ますの容量が京の基準と異なっていたことは、当時の地域社会が独自の経済圏を持っていたことを象徴しています。足利義昭などの将軍が全国の基準を統一した事実はなく、むしろこうした地域ごとの差異が戦国時代の特徴の一つと言えます。
問4	答え 1 喜望峰	アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。
問5	答え 2 下剋上	室町幕府の権威が衰退した応仁の乱以降、身分に関わらず実力のある者が台頭する「下剋上」の風潮が強まりました。これにより、もともと守護大名の家臣であった守護代や、さらにその下の国人が、主君を追放して戦国大名へと成長していく動きが各地で加速しました。
問6	答え 4 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと	16世紀前半に博多の商人らによって朝鮮半島から伝えられた灰吹法（はいふきほう）は、鉛を使って鉱石から銀を取り出す画期的な精錬技術でした。この技術が石見銀山に導入されたことで、不純物の少ない高品質な銀の大量生産が可能になり、日本の銀が世界経済において大きな影響力を持つことになりました。選択肢にある「たたら吹き」は鉄、「官営模範工場」は富岡製糸場などに代表される近代化の動きを指します。
問7	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は実力で領土を治める必要がありました。そこで、領国支配を安定させるために独自の法規範である分国法を制定しました。これは、大名の権力を強化し、家臣同士の私的な争いを禁じる役割を果たしました。
問8	答え 4 尼子氏と毛利氏	石見銀山は現在の島根県大田市に位置し、戦国時代にはその莫大な利益を求めて周辺勢力が激しく争いました。当初は出雲国（現在の島根県東部）を拠点とした尼子氏が支配を強めていましたが、安芸国（現在の広島県）から勢力を伸ばした毛利氏がこれに挑み、長期にわたる抗争の末に毛利氏が支配権を確立しました。山梨県の武田氏や鹿児島県の島津氏は、活動拠点が異なるためこの地の直接的な支配権争いには関わっていません。
問9	答え 1 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった	鉄砲の伝来と普及は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬武者中心の戦いから、鉄砲を装備した足軽による組織的な集団戦法へと移行しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げ、厚い壁を持つ堅固な城郭が築かれるようになるなど、建築技術にも大きな影響を与えました。
問10	答え 4 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。	戦国時代は常に他国からの侵略のリスクがあったため、大名にとって家臣団の結束は死活問題でした。家臣同士が私的な遺恨で争い、戦力が削られることを防ぐため、分国法を通じて「争いの理由は問わず、両者を処罰する」という厳しいルールを課し、紛争の解決は大名による裁判に委ねさせることで、主君としての統制力を強めようとしたのです。
問11	答え 3 明の皇帝から「日本国王」として認められた義満は、倭寇と正式な貿易船を区別するために「勘合」という札を用いる日明貿易を行った。	室町幕府の3代将軍である足利義満は、明との国交を樹立し、日明貿易（勘合貿易）を始めました。この貿易では、当時沿岸部で活動していた海賊（倭寇）と正式な使節を区別するために、「勘合」と呼ばれる照合用の札が使われたのが大きな特徴です。
問12	答え 2 応仁の乱	8代将軍足利義政の跡継ぎ問題をきっかけに、守護大名の細川氏と山名氏が対立して始まったのが応仁の乱です。この乱によって幕府の権威は失墜し、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと移行する大きな転換点となりました。
問13	答え 3 城下町	戦国大名は、領地を効果的に支配するために、それまで各地に分散していた家臣を城の周辺に集め、軍事力を強化しました。同時に、武器の製造や物資の流通を担う商工業者を住まわせることで、経済の活性化も図りました。福井県の一乗谷（朝倉氏の拠点）などは、その代表的な遺跡として知られています。
問14	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。